

新報

明治三十年六月八日 火曜日
舊曆丁酉五月九日 (丁酉)
西曆一千八百九十七年
五月九日 入山 午前六時三十分
入山 午前六時三十分
入山 午前六時三十分
入山 午前六時三十分
入山 午前六時三十分
入山 午前六時三十分
入山 午前六時三十分
入山 午前六時三十分
入山 午前六時三十分
入山 午前六時三十分

芝大の好時節とあれり

浦の清涼快潤の樓上に
見の名物活魚の料理
晴家の夏季之宴會極て妙

川崎銀行

東京日本橋區橋本町十四番地
電話本局二二三八番
支店 東京 本町二丁目
支店 東京 本町二丁目
支店 東京 本町二丁目
支店 東京 本町二丁目
支店 東京 本町二丁目
支店 東京 本町二丁目
支店 東京 本町二丁目
支店 東京 本町二丁目
支店 東京 本町二丁目
支店 東京 本町二丁目

金時珊瑚

御備拵するの
玉並根掛るの
御備拵するの
御備拵するの
御備拵するの
御備拵するの
御備拵するの
御備拵するの
御備拵するの
御備拵するの

日本郵政大傳馬町三丁目二十四番地

屋物品火災保險株式會社

電話浪花三百二十五番

火災保險株式會社

京都市二條通大藏町西南角

社説

蓋ぞ外債と募集

先頃日本銀行の手を懸て英商に買渡したる軍事公債四千三百萬圓は此程先方に於て額面千圓に付百三十二志四片の割合を以て倫敦市場に賣出たるに市價は百五磅二志四片に上れり云々(當時の爲替相場にて一磅は十圓二錢二厘四毛に當れば百五磅二志四片は千五百三十二圓二錢二厘二毛なり)或は此報に接して、業外の好景氣なりと認むるものあらんれば、我輩の所見を以てすれば目下倫敦の株式市場にては二分半利付のコンソール公債が百五磅、二分七厘五毛利付のコンソール公債が百十二磅に賣出せらるゝに五分利付の軍事公債が千圓に付百五磅餘の賣價とは大に物足りぬ心地なきを得ず日本の幣制が買本位にして我公債を買ふ者は銀價変動の度ごとに不測の損害を被むるの危懼あれば、兎も角本年十月以後幣制は金貨本位に改まり我公債も同時に金貨公債となるものとすれば凡そコンソール公債の相場より割出して餘は好き價を得べき筈なるに然るに新幣制は僅々數個月の後に實施せらるゝにも拘はらず外國市場の買本位相應の價格を保つる能はざるは如何なる次第なりやと云ふに彼等の考を以てすれば日本公債は據置年限短くして發行後五年を経過すれば所有者は何時低利の公債と取換へらるゝやも知る可らず斯くては永く五分の利子を收むるも能はざる其上に日本は法律上金貨本位を採用したれども今後の金銀比價の變動如何に依り果して之を維持するを得るや否や能ならず金貨公債の積りにて買入れたるものが償還を受ける時には銀貨公債に變するが如き懸念も圓る可らずとて利子の高きを見ながら兎角買進せざるならん無理なき次第にして彼等の不安心は金を銀に換へらるゝの一點に外ならざれば財政上既に外債を入るの必要を感じて之を唯一の法と認めたる上は、いよいよ本音を吐て斷然金貨公債の募集と決し外國財主が好む如く其期限を長くし幣制の如何に拘はらず必ず金貨を以て償還す可き旨を契約したらんにはコンソール公債と同率の利子を以て額面の應募は或は覺束なしとするも凡そ三分の利付なれば目的を達するも敢て難きに非ず目下倫敦市場の相場を聞くと何牙利の三分利付公債は九十二磅、土耳其の三分半利付公債は九十六磅半にて賣出せらるゝし況んや我國年來の信用を以てする時は三分利付の金貨公債を募集するは容易の事なる可し殊に今度政府にて要する公債の用途は軍に諸般新事業の施設に供するものにして外國財主の氣受も悪しからざる可き其上に歐米の經濟社會は近年金價騰貴物價下落の爲に不景氣一方ならず百餘の事業沈没して資本家は概して確實なる公債證券等に投資するの傾向をとれば我國の金貨公債は必ず彼等の需要に投するや疑ふ可らず最期より外債募集と打出して外に募るもとすれば斯る有利にて目的を達するの見込めるにも拘らず五分利付の軍事公債を外國に賣出し僅に額面以上の價を得たりとて之を喜ぶが如き迂濶の甚だしきもの云はざるを得ず左れば今般政府の都合にて公債の募集は、

希臘の國民同盟

希臘土耳其其兵を掃ふるの初め國民同盟なるもの境を越えて土耳其の領内に入り大に其兵を破りたる由は當時の倫敦電報の告ぐる所にして戰端の開始を遂ならしめしもの實に此舉動に基きしなり而して其國民同盟とは如何なるものなるや大に之を疑ひし所なるが今倫敦デリークロニクルの社員が當地に在在する希臘人につきて聞き得たる所なりとて同新聞に載するもの稱や其事情を詳にせるが如し

御陵本工事

月曜東北の本工事
超工事等を行
師木子清敏氏は去
地に赴き翌二十八
日を以て全く取
匠は一工事を
務取所を新築し
計の重なる點は
て本工事は
ありては内閣
あるをうと云ふ
日、皇族の
谷川、

上京の地方

の如く芝居官に於
しが尙ほ本日は上
等なりと申す